

「パックテストの発色：画像による保存・記録」推奨方法

スマートフォン・デジタルカメラの活用

パックテストチューブの発色は、反応時間を過ぎると退色や変色が起こります。

そこで、発色状況の後日確認や比較のため、スマートフォンやデジタルカメラを用いた画像撮影によるデータの保存や記録をお勧めします。

発色を画像で記録しておくことは、工場の排水測定などの履歴や、各現場での測定結果の保存に有効です。

「画像撮影の活用イメージ」

①海外や国内で複数拠点をお持ちの企業で……

各工場で測定したパックテストチューブの発色を撮影し、画像を本部に送って判定や履歴等を一括管理。

②環境保全の市民活動で……

複数の河川や同一河川の上流～下流で、測定したパックテストチューブの発色をスマートフォンで撮影。画像データに含まれる位置データとあわせて活用。

「画像保存の方法と注意点」

●発色させたパックテストチューブの後ろに、下部余白をカットした標準色を置き（図1）、一緒に撮影することを推奨します。

●パックテストの種類・光源・撮影機材などの条件により、目視と画像とで印象が大きく異なる可能性があります。必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

●諸条件により画像上の発色が異なってきますので、撮影履歴が必要な場合は、できるだけ同一条件（撮影場所や使用する機材）での撮影をしてください。

●スマートフォンでは、機種によって焦点距離が異なるため、鮮明に撮影できる位置に機器を置いてください。治具の作成なども有効です（図2）。

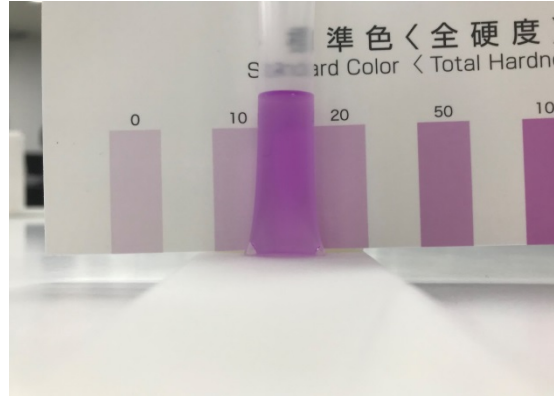


図1 標準色と一緒に撮影することで、判定がより明確になる

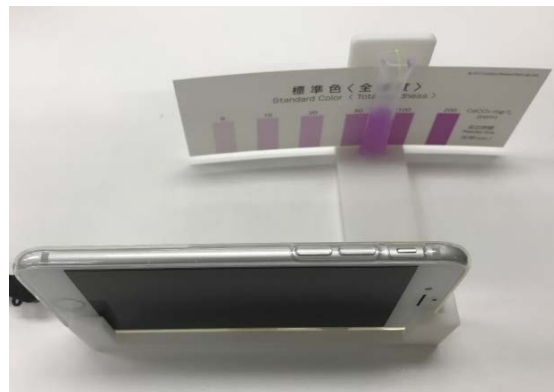
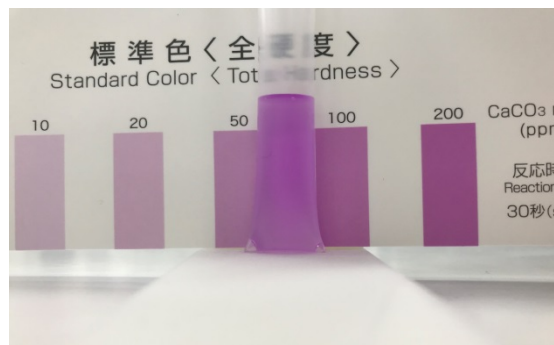


図2 スマートフォンと治具の組み合わせ例

以上



株式会社 共立理化学研究所
KYORITSU CHEMICAL-CHECK Lab., Corp.